

折尾周辺の史跡巡り著者

小田 弘之

『先人の足跡を大事に』

昭和初期の折尾地区の小学校は本城と則松の二校だけでしたが、現在では、七校を数えています。

折尾地区も、昭和53年、日本唯一の当時労働省所管の産業医科大学がこの地に開学してからは学園都市へと発展を続け、人口の急激な増加と共に、街づくりが行われてきました。その結果、昔の面影は失われ、懐かしい美しい山野は姿を消しました。

昔は至る所に青々とした水田の広がる、長閑な田園風景でした。

通学道路も、江戸時代からの、或いは、さらには古く鎌倉時代からの生活道路ではなかったか

と思えるような、山野の小道を通って通学したこともありました。

また、凡そ二五〇年前に黒田藩最大の土木工事だと云われて造られた堀川には、昭和の初期、五平太舟が石炭を満載して、数艘列をなして洞海湾に向かって漕がれていました。

今では、想像すら出来ません。船頭さんの棹さす長閑な風景は折尾を代表する美しい風景の一つではなかったでしょうか。

昭和初期までは、まだ、先人の生活の息吹が残っていました。山野を切り開き、宅地が造成されて宅地化が進められますと、貴重な先人の足跡が失われ、江戸時代に苦労した農地が、今では、工場地帯となり、高層ビルが建ち並ぶ地帯に変貌してしまいました。

昔の面影は失われ、歴史を語る事すら難しくなっています。

街づくりは、近代化と、利便性を求めて進められていくことは当然のことですが、そこには、

先人達の血の出るような苦労の足跡が忘れ去られようとしていることも忘れてはなりません。

後世に伝えるよすがさえも失われていくことは寂しい限りです。

（株）東筑軒

佐竹 真人

『折尾の発展の為に...』

この秋、大正5年に建築された折尾駅舎が解体され、100年近い歴史に幕を閉じようとしています。折尾駅は、日本初の立体交差駅として近代日本のエネルギー産業の重要な役割を担ってきました。

また、時代が変わり折尾の街が学園都市として生まれかわっても、そのシンボルとして広く愛されてきました。

木造二階建て駅舎は日本全国でも珍しく、近代の洋風建築様式と装飾を残す、文化財としても貴重なその雄姿が見られなくなってしまうのは、大変寂しく、残念でなりません。

今、地元有志で移築 再利用ができないかと何度も何度も検



堀川の一本柳

こすげのりかず

討会を開いています。

その折尾駅を含めて市の整備事業により、折尾の街が大きく変貌しようとしています。

地元で生活する住民にとって道路が広がり交通量が増える事は、あまり歓迎できるものではありません。静かに安全で且つ便利に暮らしたいと望みます。

しかしながら折尾駅は公共性が高い施設でありますので、こちらの我儘だけを通す事は出来ません。

駅を利用する近隣の方々の利便性も考慮しなくてはならないでしょう。それが駅を中心とする街づくりの基本だと思います。住民と駅を利用する近隣の人々がお互いに理解しあい協力しあって街づくりを推進し、その上で折尾の街が発展し、歴史と文化を守りながらさらに活性化されれば良いと思います。そんな街づくり活動が出来る事を切に希望します。

じゃーなる河南

白石 信太郎

『案内板や説明板の設置を』

折尾のまちづくりビジョンについては「折尾未来21協議会」が昨年北橋健治市長に提言しているのものでこれを最大限反映したまちづくりが実施されれば良いと思います。

私の希望は折尾の街のことを多くの人たちに周知してほしいと願っています。

駅舎などに案内板があり、観光地で良く見かける無料の地図があると、初めて訪ねて来た人は親切な街だと感じるでしょう。案内板（地図）に、例えば折尾高校の川ひらたを見学に行くにはどう行けばよいかを示してあると不安なく目的地まで行けます。

また、地元の人たちには郷土

のことを知ってほしいし、知ることにより郷土愛が自然と生まれます。

そのためには折尾の歴史を記述した説明板を駅前広場か駅舎内に設置することを望んでいます。

具体的には折尾の地名が初めて古文書に記載されたのはいつの時代からかに始まり、堀川の歴史、折尾駅の開業、遠賀郡の中心が折尾に移った経緯など説明すると郷土に対する親近感が芽生えてくるものです。

以前、学園都市折尾開発会議が郷土ゆかりの人物、建造物などについて各場所に説明板を設置したことは大いに評価されるどころです。

これを発展させて遠賀郡役所、警察分署、税務署などの跡地やねじりまんぼなど歴史的価値があると思われるものにも説明板を設置すると良いのではないのでしょうか。

それとこれまで何度も立ち消えになつている折尾の象徴とも言うべき金光教境内にある「堀川疎水碑」を駅前広場に移設してほしいものです。

堀川を深く知るきっかけになるはずですよ。

川ひらたが堀川を往来していた当時は堀川を見下ろす絶好の場所にあつたのですが、今は人目に触れることもなく、ひっそりと佇んでいるように思えてなりません。

さらに、「学園都市折尾」を標榜するのであれば、学生が青春時代を過ごすことになるこの街が、将来、ふと振り返ったとき折尾は良かったなと思える街にすることが大切です。

行政、地元が一層の知恵を出し合い、21世紀の次世代の人たちが安全、安心して暮らせる街になることを願ってやみません。